

## 経営学部『提供講座』5科目が開講 日本ユニシス(株) 島田社長の講義も



▲講義する島田社長

経営学部で昨年からはまった『企業による提供講座』は、今年度「日本フードサービス協会」と「日本ユニシス株式会社」を加えた5科目が特殊講義として開講され、業界を代表するビジネスマンたちがホットな情報を提供してくれている。

このうち日本ユニシス提供の情報管理特殊講義では5月6日、島田精一代表取締役社長が「変革する社会と情報化」をテーマに講演。ITに対する経営戦略の重要

性、サービスとソフトに特化し、高い顧客満足度を得る中でさらに『Re-Enterprising2003』を掲げ、企業変革の努力を惜しまない同社の新たな戦略などについて熱く語り、学生からも活発な質問が出された。

担当の竹村憲郎教授は「IT分野の代表企業の島田社長を始め、執行役員、業務担当者など各階層の毎回異なる講師から経営戦略、営業、システム開発など情報産業の主要な部分を語ってもらうこの講義は『IT企業解剖講座』とも呼べるユニークなものです。経営管理論、経営組織論などの科目で習得した知識を企業の実際と関連づけることが出来る貴重な時間になるでしょう」と講義の効果を話している。

〔5月15日/ニュース専修4面〕

## 公開講座 “THE寺子屋” スタート 枳形周辺の近世古文書を学ぶ



▲資料の古文書を手にもつ青木教授

エクステンションセンター主催の公開講座「THE 寺子屋～枳形庵から専修塾へ～」(毎週土曜日、全11回)が5月10日、生田キャンパス215号教室で市民、学生ら54人が出席して開講した。

この講座は、実際に寺子屋で使われていたテキストや枳形周辺の古文書を教材に、近世古文書を学ぶ。講師は青木美智男文学部教授と東京大学史料編纂所学術研究支援委員の西沢美穂子さん、本学卒業生の小林風さん。エクステンションセ

ンターが学外に向けて行う講座としては昨年秋に行われた公開講座に続いて2回目。定員30人は受け付け初日の午前中に達してしまい、当初の予定を変更して午前、午後の2回開催となった。

初日のこの日は『登山式』(寺子屋では入学することを登山という)が午前の部、午後の部合同で行われ、荒木敏夫文学部長があいさつ。続いて青木教授が、かつての寺子屋の役割や古文書を読むことの楽しさ、難しさなどについて講義し「少しでも古文書を読めるように学んでいきましょう」と話した。

狛江市在住の50代男性は「この講座をきっかけに、古文書を少しでも読めるように勉強したい」と意気込みを語っていた。

[5月15日/ニュース専修4面]